



# 消防団員訓練礼式



瑞穂消防署  
瑞穂区消防団連合会

# 目 次

1 号令	P 1
2 用語	P 1
3 各個訓練	P 2~P 7
4 礼式	P 8~P 11

# 訓 練 礼 式

消防は、厳正な規律の保持と迅速的確で秩序ある行動が要求されるもので、その基礎となるべく部隊の行動及び各個人の動作について、国の基準に基づき「名古屋市消防訓練礼式に関する規則」により必要な諸制式が定められている。

職員は、常にこのことを念頭に置き、これらの諸制式に熟達して団体行動を迅速軽快なものとし、消防諸般の要請に応じ得る基礎をつくらなければならない。

## 1 号 令

号令は、通常、「予 令」と「動 令」からなる。

「かしらー」

「中(なか)」



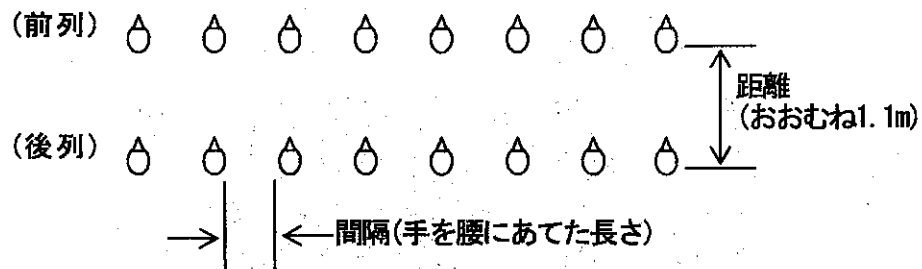
号令の要領： 明りように長く (間を置く) 活発に短く

## 2 用 語(部隊の隊形等)

- (1) 横 隊 同一線上に横に並んだ部隊の隊形
- (2) 縦 隊 同一線上に縦に並んだ部隊の隊形
- (3) 間 隔 同一線上に横に並んだ部隊又は隊員間の間げき
- (4) 距 離 同一線上に縦に並んだ部隊又は隊員間の間げき

### 【例 図】

#### 2 列横隊



### 3 各個訓練(停止間の動作)

種類	号令
基本の姿勢	「気をつけ」
休めの姿勢	「整列 — 休め」 「休め」
整頓	「右へ — ならえ」
右(左)向き	「右(左)向け — 右(左)」
後ろ向き	「まわれ — 右」

#### 基本の姿勢

「目」は前方直視  
「口」はとじる  
「あご」を引く

他のすべての姿勢の、基本となるものである。

「背筋」を伸ばし、  
「体重」はかかとと親指に平均に  
かける。

「腕」は自然に下げ、  
「指」は揃えて伸ばし  
中指をズボン又はスカートの縫い目に当てる。

「足先」はおおむね  
60度(女性はおおむね45度)に開く。



[女性(かばん携帯)の場合]

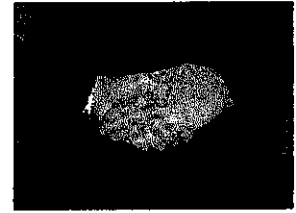
- 左手でかばんのつり革  
前方決着部を軽く握る。
- ひじは体側に添って自  
然に曲げる。



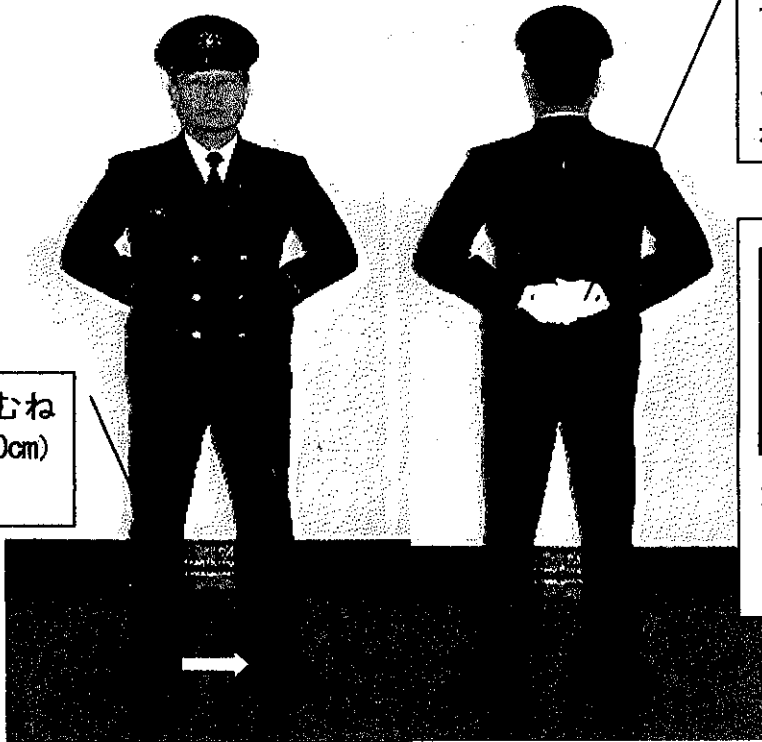
整列休めの姿勢

手は後に回し、ズボン又はスカート  
のベルトの中央に重  
ねて組む。

左足をおおむね  
25cm(女性は20cm)  
左へ開く。



左手で、右手の四指  
を軽く握り、両親指  
を交差させる。



かばんを携帯して  
いる場合は、右手  
のみ後手にする。



休めの姿勢



肘を軽く伸ばし、手を組んだまま自然に下げる。

※ 室内で脱帽している場合、帽子を持った右手は動かさない。





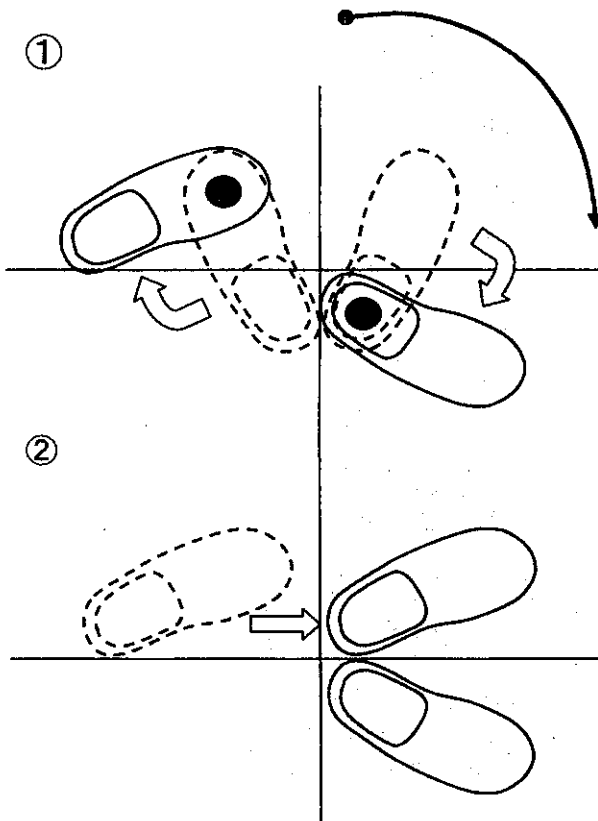
右へ—ならえ(整頓の姿勢)

最右翼員は、  
頭を左に向け、  
整頓状況を確認する。

右手を腰にあて、ひじを側方に張る。  
頭を右にまわし、右列員にならう。  
(手首を折らないこと。)



右向けの動作

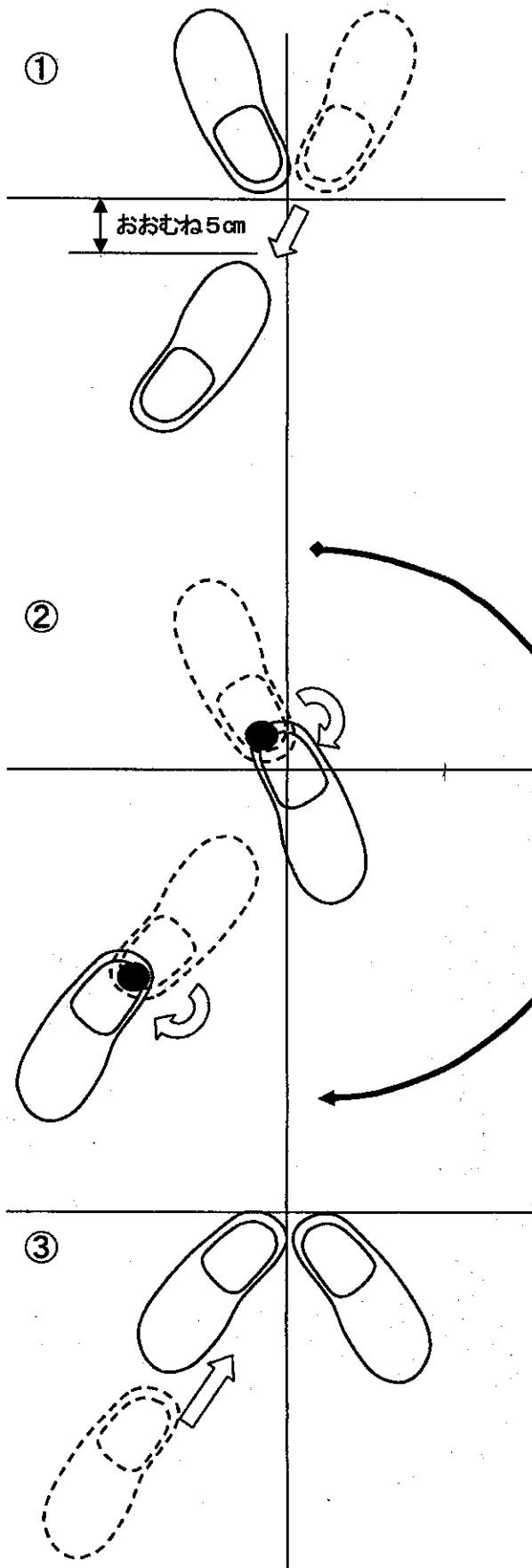


「右向け—右」の号令で、  
右かかとを軸に、  
左つま先に力を加え、  
体を右へ90度回転させる。

左足を活発に右足へ  
引き付ける。

※ 左向けの動作は左右が逆となる。

後ろ向きの動作



「まわれ—右」の号令で、右足を斜め後方に引く。

体重をかけた両かかとを軸にして、180度右に回る。

右かかとを、活発に左かかたと引き付ける。

#### 4 礼式(敬礼動作の種類と使用区分)

種 類	使用区分
挙手注目の敬礼	着帽時(室外)
15度の敬礼	脱帽時(室内)
最敬礼	着帽時又は脱帽時
旗の敬礼	着帽時で部隊の敬礼

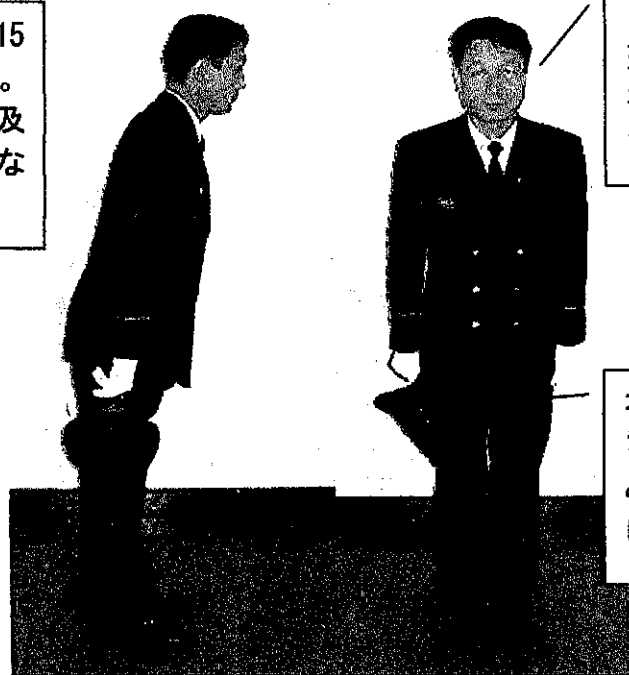
#### 挙手注目 of 敬礼

- 右手を上げ、人差し指と中指とを帽子のひさしの右端に当て、手のひらをやや外側へ向ける。
- 手首は折らないこと。



15度の敬礼

上体を概ね15度前に傾ける。この時、背中及び首は曲げないこと。



目線は床に落とさず、答礼者の胸あたりに置く。

右手で帽子のひさしをつまみ、内側をももに向ける。

最敬礼

上体を概ね45度前に傾ける。



室外で着帽時には、直前に脱帽する。

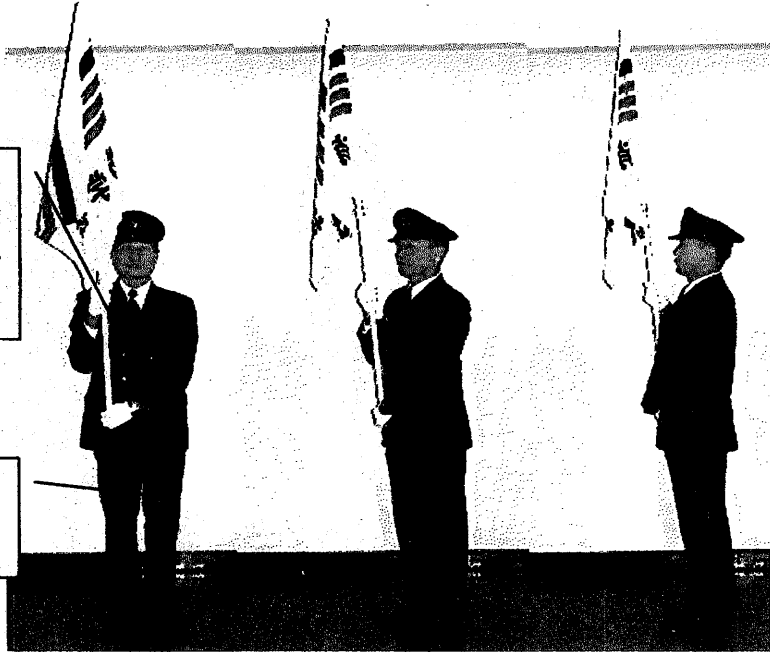
目線は床に落とす。

## 旗の敬礼

### [基本の姿勢]

右手で旗竿を肩の高さで握り、旗の先端をわずかに前方に傾ける。

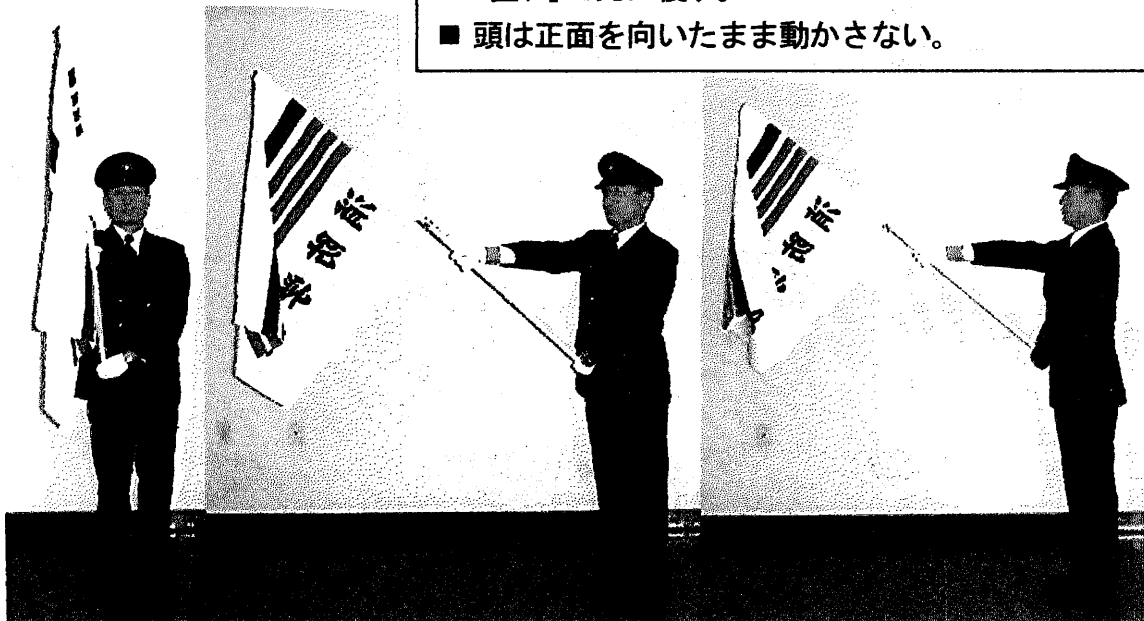
旗竿の下端を右ももにあてる。



※ 旗竿バンドを用いる場合は、左手をまっすぐ下へ伸ばす。

### [敬礼の姿勢]

- 号令(「かしら-中」の「中」等)で、右手を前に十分伸ばす。
- 「直れ」で元に復す。
- 頭は正面を向いたまま動かさない。



## 各種報告実施要領(例)

消防団の部隊活動を屋外で、巡視者あるいは現場指揮者等(以下「巡視者等」という。)に報告する場合、消防団長または代理者(以下「団長等」という。)は、次の要領により実施する。

- ① 部隊を二列横隊で集合整列させ、「整列休め」の姿勢で待機する。
- ② 巡視者等が来場し隊列の右端又は左端に達する時、自ら基本の姿勢をとった後「気をつけ」の号令をかける。
- ③ 巡視者等が定位に立ったら、「かしら中」の号令をかけ部隊の敬礼を行う。
- ④ 「直れ」の号令をかけた後、巡視者等に正対し(半ば左向け左)、挙手注目の敬礼をし報告を行う。  
「〇〇消防団、年末特別警戒実施中。本日の出動人員25名。異常なし。」  
「〇〇消防団、〇区〇町の火災、出動人員20名。異常なし。」
- ⑤ 挙手注目の敬礼をし、正面に復す(半ば右向け右)。

### 〔巡視者等 訓示〕

巡視者等から「休め」の指示があった場合は、「整列休め」と号令し訓示を受ける。

- ⑥ 訓示終了後、「気をつけ」の後「かしら中」の号令をかけ、部隊の敬礼を行う。

